

善徳

七三四一〇〇〇四
広島市南区宇品神田四一十一八
善徳寺
電話 〇八二一二五一六〇二九

歎異抄のお話

先月から「歎異抄を読む会」を始めました。

何人参加して下さるかなあと心配でしたが、十二名の方が参加して下さいました。

初めて浄土真宗のお話を聞く方もおられたこともあり、ざっくばらんにわからない事を聞いてもらい、お互いの意見を交換したりしました。

このように、お互いに話し合いながら浄土真宗の理解を深めて、安心した日常生活を送ることができるような場ができればいいなと思います。

今からでも途中からでも遠慮せずに、是非ご参加下さい。日頃のお聴聞では聞けない疑問なども出してもらえばいいと思います。

初回は歎異抄という書物の解説と、序の部分と本文の第一章を読んで終わりました。

歎異抄は、親鸞聖人から直接教えを受けた弟子の唯円が著したと言うのが定説になっています。親鸞聖人より五〇才近く年下で、常陸の国河和田のお弟子さんです。唯円が聞いて耳の底に残る親鸞聖人の法語は、聖人が八〇才を超えた頃の言葉のようです。

この頃の親鸞聖人には、正しい信仰のためには、間違ったことを吹聴している長男の善鸞を義絶せざるを得なかったという悲しい出来事がありました。その中で関東の門弟たちに伝える言葉は、少しの疑問も交えてはならないという迫力が伝わってきます。

それを直接聞いて真実を呑み込んだ唯円房が、今度は親鸞聖人亡き後、二〇年余りた

ち、再び親鸞聖人の言われたことと異なる考えがはびこってきているのを嘆き、糾さなければならぬと書いたものが歎異抄です。

唯円は、親鸞聖人の曾孫で本願寺の体制を築いた覚如上人にも会われて、親鸞聖人の考えを伝えていきます。もしかすると、その時歎異抄を覚如上人に献呈されたのかも知れません。唯円の原本は失われていますが、最も古い写本が、本願寺第八代門主蓮如上人の写されたものです。

第一章はまず、阿弥陀如来の救いが絶対であること、を説いています。たとえどんな悪人であったとしても、阿弥陀如来を信じて救われたいとお念仏を称えるならば、必ず救ってくださるのです。

「阿弥陀仏の誓願の不思議な働きにお救いください、必ず浄土に往生するのであると信じて、念仏を称えよう」という思いがおこる

とき、ただちに阿弥陀仏は、その光明の中に摂め取って決して捨てないという利益をお与えくださるのです。阿弥陀仏の本願は若いも若きも善人も悪人もわけへだてなさいません。：（中略）：

ですから、本願を信じるものには、念仏以外のどんな善もいりません。念仏よりもすぐれた善はないからです。また、どんな悪も恐れることはありません。阿弥陀仏の本願をさまたげるほどの悪はないからです。

このように聖人は仰せになりました。（本願寺出版社の現代語訳より）

行事案内

報恩講法要

日時 十二月八日（金）

朝席十時 十二時お斎
昼席午後一時

◎ご法礼を上げて下さった方にはお斎をお出しします。

講師 大三島 万福寺 浅野執持先生

歎異抄を読む会

十月六日（毎月第一金曜日）
午後一時半から三時

お朝事

毎朝七時から八時

正信偈和讃繰り読みと法話

現在石丸晶子著「法然の手紙」音読中

秋季永代経法要

十月十二日（木）昼席一時

十三日（金）昼席一時

講師 江田島 光源寺 海谷真之先生

尚、十一日（水）午後一時より、仏具のおみがきをします

お手すきの方はお手伝い下さい



令和六年度前期

回忌法要案内(敬称略)

一周忌(令和五年寂)

一月 小竹シズエ 植村秀子

二月 西田ミヨコ

三月 福傳△ツコ 梶本俊彦

四月 久松俊子

五月 白藤誠

六月 伊木治郎

七月 新川幸子

八月 黄秀夫

九月 渡邊康夫 西力ツコ

十月 堀 義昭 大坪和子

十一月 小川文夫 稲元文恵

十二月 堀川秀明 山口ミツ工

一月 栗栖 晃 栢島百合子

二月 三輪敏子 小林志朗

三月 福傳勢津江 池田 豊

四月 和名谷勝男

五月 辻本 九 大野秀雄

六月 竹本昭子 保里 都

七月 久保田節枝 丸尾宮子

七回忌(平成三十年寂)

一月 山野アキノ 寺尾和子

二月 津川夕カコ

三月 小林律子 福田 豊

四月 大儀繁子 岡本 進

五月 樋谷俊昌

六月 松本美紗子 長本博之

七月 近清佐智子 松田千枝

八月 境 巴 中神弘子

九月 安達康史

十月 佐々木マサコ 大原征治

十一月 寺西ヤス子 藤井卓美

十二月 大成 忠 橋本ミサヲ

一月 福傳敏之 長本政勝

二月 上川幸俊 中岡正明

三月 高森和子 住吉清一

四月 海老根勲 大越龍二

五月 池本ウエ子 藤井健三

六月 岩木 勉

七月 白藤信夫 米田初子

八月 有田トシ子 尾本ハル子

九月 下田キミ子

十月 林 養悟 兼本達嗣

十一月 片山博才 安倍とし江

十二月 永岡 董 増田アヤコ

一月 松浦 博 岡本恵美子

二月 国清耕治

三月 山根喜代子 中原洋平

四月 小林シズ工

十七回忌(平成二十年寂)

一月 向谷ミツコ 矢野文子

二月 西永悦夫 八重垣弘

三月 堀本清子

四月 林ミチ工 小泉和子

五月 八木 瞳

六月 柴崎ハナ子 中井四郎

七月 船田利明 高橋好見

八月 山下治男

九月 中矢チエカ 奥田正康

十月 部村トメ子 井上正

十一月 藤本マツ子 河野力ツコ

十二月 寺本ミツ子 向キミ子

一月 藤谷セツ子 原田カスミ

二月 藤原トラ 高岡 章

三月 細川シズ子

四月 村上アヤ子 旭生三

五月 小城戸文枝

六月 加藤誠次郎 中島節子

七月 鳥越敏子

八月 大下睦男 今田サカエ

九月 西村年江 矢田部才子

十月 黒江トク工

三十三回忌(平成四年寂)

一月 松本健次郎 三木キミ工

二月 山田正恵 山野新蔵

三月 倉岡俊徳 村北ヒナ

四月 糸崎玉一 川口菊枝

五月 芝勝人 湯藤茂

六月 高橋 勇

七月 松本春雄 峠増太郎

八月 出村八重子

九月 田中善次郎 岡野上政雄

十月 井上久恵

十一月 奥本正則 小早川ツル子

十二月 中村松子 村上環

一月 梶岡豊春 伊達昌郎

二月 上本力ツミ 河野真人

三月 近藤茂美 岡崎忠喜

四月 片瀬ハマ 平木アキノ

五月 濱田 勝

六月 青木ミズ子 宮田コギノ

七月 宮本エキ子 柳田鈴代

八月 西田コト 今井善吉

九月 鈴木 誠 乙井包義

十月 美濃 稔 佐久間三郎

十一月 中井健治

十二月 大林 拡 柴崎 長

敬 弔

お浄土に参られた方を謹んで
お知らせいたします。

八月二日寂 海岸二丁目

三浦イツコ様 行年七四才

八月九日寂 神田五丁目

平 義明様 行年九五才

八月二十九日寂 安芸津町

猿渡ミネ様 行年九十九才

九月七日寂 御幸三丁目

末吉隆雄様 行年八十四才

九月二十六日寂 翠二丁目

柴崎京子様 行年八十八才

